

2025 「はたらく女性の集会」

連合北海道女性委員会は、はたらく女性が抱える諸問題について組織を越えて共有し合い、改善に向けた一歩につながることを目的として、毎年「はたらく女性の集会」を開催しています。

今年は9月6日(土)に、対面・Web 併用で開催し、10産別6地区76人が参加しました。

はじめに、連合北海道女性委員会の河原崎育子委員長が最近の情勢として、「2024 年5月31日改正育児・介護休業法」が交付されました。改正の趣旨は、育児や介護と仕事を両立して離職を防止することを目的として、事業主に必要な措置を講じることとされています。全道庁労連では名称を「子育て支援休暇」として中学校就学の終期まで取得できる制度が措置されています。みなさんの単組ではどのような制度となっているのでしょうか。令和5年版男女共同参画白書によると、男女とも若い世代の意識は変化しており、若い年代の女性ほど、就業継続意欲、昇進意欲、管理職になることへの意欲が高く、若い年代の男性ほど、家事・育児等への抵抗感が低く、また参画意欲が高くなってきていると分析されています。男女ともに、希望に応じて、家事・育児等を担いつつ、これらと仕事やキャリア形成との両立が可能になるようにしていくことが重要な課題であり、現在の若い年代の男女がより上の年代になったときにも、これらの意識を持ち続けられるように後押しする必要があります。改正育児休業制度により柔軟な働き方ができるようになっているので、皆さんの単組でも動向に注視していただきたいです。現在は、子供を産む、産まない。結婚する、しない。など価値観が多様化し様々な人生を選択できる社会になりました。それにともなう従来からのイメージの性教育から変化して自分らしく生きることができる、人権の観点から包括的性教育が取り上げられています。本日「自分らしく幸せに生きる」と題し、苫小牧の助産院なりママ 代表助産師 中田知穂さんの講演をいただきます。連合北海道は男女平等のさらなる推進とジェンダー平等に取り組み、一人ひとりが尊重された真の多様性が根づく職場・社会を方針に掲げています。男女平等の実現、男女平等、均等待遇、ワークライフバランスにむけた取り組みや環境整備などをめざし、男女平等推進委員会と女性のネットワーク作りや



河原崎委員長の挨拶



労金の小林佳奈さん

女性が自ら課題解決のためエンパワーメントしていくことを目的とした女性委員会は、それぞれの目的に沿いながら、両輪で活動していく必要があります。このことを共通認識としながら、これからも産別の仲間のみなさんとともに活動する女性委員会でありたいと思います。と挨拶がありました。

次に「ろうきん講座」では、北海道労働金庫営業推進部 小林佳奈さんから、ろうきんの営業内容や「可処分所得向上運動について」の話がありました。

その後、ライフスキルセミナー～包括的性教育の視点から「自分らしく幸せに生きる」を考える～と題し、苫小牧の助産院なりママ 代表助産師 中田千穂さんに講演をいただきました。苫小牧で助産院なりママを開業し、初の産後ケア施設で育児に困ったときに駆け込める施設となっています。3人の息子さんにも包括的性教育として、タイミングを見計らって様々な話をしています。苫小牧性教育人材バンクのメンバーとして、色々な年代の人にお話をしています。という自己紹介がありました。

はじめにアイスブレイキングで、「じゃんけんを3回します。したくない方はしなくても良いです」と始まりました。就職して驚いたことは10代の妊娠、出産が多いことでした。出産はその後の人生に大きな影響を与え、生まれた子供にも大きな影響を与えます。また、中絶経験者がものすごく多いということでした。中絶したくて妊娠する人はいない。今産めない状況であれば、そうならない情報をしっかり届けたい。はじめは避妊という情報を届ける活動していましたが、国際的な教育方針があり、それを取り入れることが避妊だけでなく人生を豊かにするためになるということで、今は包括的性教育を教えています。

はじめてにアイスブレイキングで、「じゃんけんを3回します。したくない方はしなくても良いです」と始まりました。就職して驚いたことは10代の妊娠、出産が多いことでした。出産はその後の人生に大きな影響を与え、生まれた子供にも大きな影響を与えます。また、中絶経験者がものすごく多いということでした。中絶したくて妊娠する人はいない。今産めない状況であれば、そうならない情報をしっかり届けたい。はじめは避妊という情報を届ける活動していましたが、国際的な教育方針があり、それを取り入れることが避妊だけでなく人生を豊かにするためになるということで、今は包括的性教育を教えています。



講師の中田知穂さん

ユネスコから出されている国際セクシュアリティガイドダンスの本にまとめられている項目は8つに分かれています。まず「人間関係」があります。親、友人、学校、会社など生きていくうえで人間関係がつきものであると思います。そこから性に発展することもあり、人としての関わり、土台を作ります。「価値観、人権、セクシュアリティ」。このことを最も大切にしています。色々な価値観を持つ人がいること。色々な考え方を受け止めると過ごしやすくなります。「ジェンダーへの理解」では女性が過ごしやすくなるだけではなく、深く学ぶことで世界全体が変わってくると思います。知識があれば選択肢も広がります。「暴力（言葉や無視、性暴力なども含む）」から自分を守ることも学んでいきます。自分にとっての「健康と幸福のためのスキル」を考えていきます。残りの3つは皆さんの知っている性教育です。



会場でのアイスブレイキングの様子

今日は「性と生殖」について紹介していきます。レベル1から4まであり、1は5歳から8歳で絵本をつかうことから始まり、2は9歳から12歳、3は12歳から15歳、4は15歳から18歳です。興味を持つ前に必要なことを伝えるのが良いです。思春期になってから伝えるのは実際難しいです。この学びは知識、態度、スキルの3つで構成されています。情報を知ったうえで自分がどうするか決めるための教育です。性というのは生きていくうえで切っても切り離せない問題です。自分の性をどうとらえるか、結婚するかしないのか、子供を産むのか産まないのか、自分を理解し幸せになるために必要な教育だと思いお伝えしています。何度も何度も繰り返し学ぶことで自分らしさを自分で見つけていく。私の人生は私のものです。色々な情報を知って考えて決められる自分になっていけると良いと思います。日本の学校では性に関するくわしい事が伝えられないような取り決めになっています。子供たちはいつどこでどうやってその情報を得られるのか。性に興味を持つ前に必要な情報を届けるというのが、今の日本の課題だと思います。

子ども家庭庁では、プレコンセプションケアの取り組みが始まっています。プレコンサポーターが生殖可能年齢の子供たちに性に関する情報を伝えていこうとしています。日本は自己責任の国と私は表現しています。乳児、胎児の遺棄事件を見るたびになぜ女性だけを逮捕するのか、悲しい思いをし、疑問を持っています。妊娠は女性だけではできないので、国として対応してほしいと感じています。心と体の変化は大きく分けて5つの段階があるといわれています。小児期、思春期、成熟期、更年期、老年期と、その時期にホルモンの変化などについての知識があれば、前もって準備できてよいと思います。生活習慣を見直し、健康な心と体を作っていくのが大切です。日々できることを少しずつ積み重ねましょう。生理は100年前に比べて早く始まるし2倍の回数になっています。月経困難症の94%の人が治療を受けていません。男性も生理について知ってほしいです。理解が深まれば生理休暇という制度も使いやすくなるのではないかと思います。性犯罪など様々なニュースのことも子供に伝えていくことで、「何か危ないという気がする」というセンサーを日々の暮らしの中で育てることができます。

包括的性教育は人権教育です。自分が自分らしく幸せに生きるための教育となっています。どんな人生を思い描くか、自分の身体は一生自分のものです。その身に起きたことは一生何かしらの影響を及ぼすもの。人生設計を立てて目標に向けて生活する。それが自分の望む幸せな人生に近づけると 생각합니다。人生の主人公は自分です。自分で考えて行動する力をつけてほしいです。なるべくたくさんの知識、経験や価値観に触れることが人生の選択肢を増やすことにつながります。秋田県では、積極的に性教育をすすめることで中絶の件数が減りました。子供たちは慎重になり、考えて行動するようになります。性教育の自立は依存先を増やすことです。相談できることが大切です。今日のことを誰かに伝えていくことで自分の理解も深まります。今日から誰かに伝えていきましょう。「#つながるBOOK」や日本産婦人科学会「HUMAN+ 女と男のディクショナリー」をご紹介します。という、充実した内容でした。



金子副事務局長のまとめ

最後に連合北海道金子ユリ副事務局長からまとめでは、男女平等推進委員会の取り組み、参議院選挙総括、春闘では、大企業だけではなく、中小企業も賃上げの流れが続いている。これからも誰もが働きやすい職場を目指して活動を進めていきます。